



talk! talk! talk! 女優・国仲涼子さん



女優 国仲涼子さん

爽やかな親しみのある笑顔で老若男女を問わず人気の国仲涼子さん。実力派女優として様々なドラマや映画で活躍するかたわら、自分が触れた自然や人物の撮影を楽しんでいらっしやるとのこと。2007年にD80を購入したことをきっかけに一眼レフでの撮影を開始。写真に収めた感動は多くの人たちと共有できるから素敵、とカメラの魅力を存分に語っていただきました。

プロフィール

くになか・りょうこ。1979年沖縄県生まれ。1999年にテレビドラマ「L×I×V×E」（TBS）で女優デビュー。かわいらしい笑顔と、高い演技力から人気に。2001年に放送されたNHK連続テレビ小説シリーズ「ちゅらさん」（NHK）で主演を務める。また「ちゅらさん」の続編でも好演、実力派女優として活躍の幅を広げた。
主なドラマに「ホタルノヒカリ」（日本テレビ）、「風のガーデン」、「セレブと貧乏太郎」、「タンブリング」（TBS）などがある。また映画にも活躍の幅を広げており、「ミラーを拭く男」（梶田征則監督）、「電車男」（村上正典監督）、「そのときは彼によるしく」（平川雄一朗監督）、「HERO」（鈴木雅之監督）、「感染列島」（瀬々敬久監督）、「ターリンは外国人」（宇恵和昭監督）など話題作に多数出演。
2010年秋から放送予定の話題ドラマ「ストロベリーナイト」に出演が決定するなど、多方面で活躍中。

Beginning 出会い

デジタル一眼レフカメラを使いはじめたきっかけは？

使いはじめたのはテレビ番組がきっかけなんです。番組の中で「私なりの東京観光」をするという企画がありました。そこで出会う東京の様子とか風景をカメラに収めたくて、思いきって買っちゃいました。そもそも、沖縄にいる家族に“東京”の姿を見せたかったんです。特に祖母は「東京は人も多くて危ない、怖いところだ」って言っていたんです。実は私も上京したての頃は「東京」が怖くて、最初の頃は家から出られませんでした。駅の自動改札も沖縄には無かったので怖かったです（笑）。でもまわりの方たちから「外に出ないなんてもったいない！」っていわれ続けたので、一念発起して外出するようにしたんです。いざ外出すると、冷たい人ばかりじゃなかったし、事件に巻き込まれるなんてこともありませんでした（笑）。それどころか素敵な発見をいっぱいしちゃいました。
「東京」とひと言に考えてましたが、その中にたくさんの知らない世界があったんです。勝手に怖いイメージをもってしまっていて、本当にもったいなかったなあって思います。だからこそ本当の“東京”を家族に見てもらいたいと思ったわけで、先入観なく、ありのままを撮ろうと考えたんです。私が暮らしていくことに安心して欲しいっていうのもあったんですが、家族にも怖くなんかない、素敵な“東京”を知って、好きになってもらえたらいいな、という思いが強くなりました。

最初に購入されたデジタル一眼レフカメラは？

NikonのD80です。番組の中で家電量販店に行って、店員さんに相談させてもらいました。一眼レフといっても種類がたくさんあるんですよ。だから迷っちゃって……。どんな時にどんなレンズが合うかとかということもよくわからなかったもので、初心者なんですっていったら「手ブレ補正レンズなら、初心者の方でもブレなくて安心ですよ」と勧めていただいたので、手ブレ補正機能がついたD80のレンズキットを選びました。

最初に使ったときはどうでしたか？

シャッター音がすごく気に入りました。プロっぽくて、重みがあるんですよ。私は直感的に『いいな！』と思うと結構バシバシ撮っちゃうタイプなので、構図とかを整えなくても、たまにビックリするような写真が撮れちゃったんです。自画自賛ですけどね（笑）。番組のロケ中だったのに、とにかく嬉しくて「あっ！ やばい！ 私天才かも～！」なんて口走っちゃいました。

Pleasure 楽しみ

主に“東京の風景”を撮られるんですか？

気になった物は何でも撮る派なので、東京の風景にだけこだわるのではなく風景ならどこでも何でも撮ります。仕事でいろいろな場所に行くので、写真を撮るチャンスだけは多いんです。
美しい風景をわざわざ撮りに行くよりも、近所の公園やベランダからの風景とかを自然のまま撮ることも多いですね。毎日のように通る道でも、ファインダーを通して見ると急にキレイな風景に見える。それって面白いですよ。カメラの魅力だと思うんです。

東京の写真を実家の家族に見せたときはとても喜んでくれました。母は東京全部がビルっていうイメージじゃなかったようなんですが、何となく昭和を感じさせてくれる下町とか、狭い路地の先にある古い家屋なんかも味があっていいわね、って。私が面白いと思ったことやそのときの感動を、写真として遠くはなれた家族が見て安心してくれるのって素敵ですよ。両親は私の写真のおかげで東京に何度も来ているんですよ。写真を見て安心したみたいで。

旅行で写真撮影されることも多いですか？

旅行というか……、時間があると沖縄の実家に帰ってしまいます。家族が大好きなんです！ でも沖縄なので、やっぱり旅行みたいになってしまいますね。もちろん沖縄でもいっぱい撮りますよ。帰るたびに母と行く海辺のお気に入りカフェがあって、そこから海を撮ると沖縄の自然を手に入れたような気分になって最高に気持ちいいんです。そんな沖縄の何気ない海や空を、自然な風景として気どらないで写真に収めています。



旅行や帰省のときに持って行かれるのですよね。

たしかにコンパクトデジタルカメラに比べると、持ち運びは結構大変です。でも旅先での感動をしっかりと収めるには一眼レフだなと思います。写真に撮っておくと、一緒に行っていない人にとで見せられるのがいいですね。私が感動したことを共有できる面白さは、写真ならではのと思うんです。

撮った写真はご家族以外の方にも見せるんですか？

写真を見せるのは大好きです。見せるだけでなく、撮った写真をプリントして配ると、みなさんすごく喜んでくださるんですよ。だから風景以外に人を撮ることも好きなんです。でもロケなんかの休憩時間に私がピシッとカメラを構えると、似合っていないのか、さまになってないのか、なぜか皆さん笑うんですよ！
できあがった写真は何年経っても残るから、そのときの楽しさが思い出せていいですね。いろんな人を撮るんですけど、やっぱり自然な表情は素敵です。とくに笑顔って最高に魅力的！ 笑顔の幸せオーラから撮っている私がパワーをもらってます。撮った瞬間よりも、あとになって見返したときの方が感動するんですよ。直感的に撮った写真を見返して「えっ、こんな写真撮ったっけ？」って忘れていたことも。逆に「ええ？ 何でこれ撮ったのかな？」なんていう写真もありますよ。それもまた面白いです。

では、ご家族の方の写真も撮りますか？

そうですね。実家に帰ったときには家族にしょっちゅう撮らせてっていうんですけど、祖母は恥ずかしがって撮らせてくれなかつたりするんですよ。でも家族の写真を撮るのって楽しいし、嬉しいから最終的には撮らせてもらっています。帰るたびに撮

るので、どんどん増えてます。

ちょっと前に実家で、私の子どもの頃の写真を発見したんです。その中の1枚にタンスが写っていたんですけど、当時の記憶が鮮明によみがえってすごく懐かしい気分になりました。今はもうそのタンスはないけど、写真には残っているんです。その写真のように、ずっとあとに見返して懐かしめるような、思い出とか感動が詰まった写真を残したいんです。だから、家族の写真もパンパン撮っちゃう。同じ頃の写真って絶対もう撮れないじゃないですか。だから全部大切なんです。

親戚に赤ちゃんが生まれたときには、足だけの写真を撮りました。顔まで入ってる写真よりも「生まれたー！」って強い気持ちが伝わるようで、とっても気に入っています。大きくなったら見せてあげたいですね。「こんな足だったんだよ」って（笑）。

国仲さんの写真のテーマは何ですか？

“違う角度で撮る”ことです。何てことのないただの道を歩いていて、何気なくカメラを構えたら、偶然私の影が入ってすごく雰囲気のある絵になっていたので迷わずシャッターを切りました。その道って普段歩いている、本当にただの道なんですけど、ちょっと何か加わったり変わっただけで色んな世界があるんだなって痛感しました。デジタル一眼レフカメラを買って最初の日に、そうロケ中に撮った写真ですごく気に入っているのがあります。思わず「天才かも〜」って思った1枚です。小さい黄色の花を撮ったんですが、その花も意識しなければただ生えているだけ。自然にあるものを違う角度で見て、撮って、その被写体のいろいろな面を知ることができるっていうのが楽しいんです。

Photo's 作品紹介









Future これから

国仲さんにとって“写真”とは何ですか？

写真は、自分の感動を、自分が見たもの以上にキレイで魅力的に閉じ込めてくれる。だから見返したときに自分が撮った写真に対してまた感動しちゃう。感動する気持ちというのはずっと全部覚えていられるわけじゃないから、写真っていう形が残るのは本当に魅力的ですね。

積極的に写真撮影のために外に行かれるんですね。上京時に家から出られなかったというのが嘘のようです（笑）。

（笑）そうですね。東京がただザワザワしているだけじゃない、本当にいろんな魅力のある町なんだって思えてよかったです。沖縄から出てきたから、私にとって東京は住んでいるのに「遠い」と感じていました。でも本当はもっと身近な場所だから、その雰囲気写真を残したいんです。だってすごく魅力的な裏路地とか小道がいっぱいあるんですよ！

これからどんな写真を撮っていきたいですか？

スキューバダイビングのライセンスを持っているので、水中写真を撮ってみたいです。魚の大群とか珊瑚を撮るのが今から楽しみ。水中撮影って絶対新しい世界が広がると思うんですよ。海大好きですし、もっともっと好きになりたい！

犬を飼ってらっしゃるようですが、写真は撮るんですか？

デジタル一眼レフカメラを持って最初は撮っていましたが、最近は全然撮ってないです。でも今、魚眼レンズが欲しくて、愛犬のデカ鼻写真を撮れたら楽しいと思うんですよ。普通の写真だけでなく、違った雰囲気の写真にも興味があります。魚眼レンズを機に、また愛犬を撮りたいですね。

水中写真や、魚眼レンズを使った写真、楽しみですね。

私も楽しみです！カメラって奥が深いから、いろんな撮影方法にどんどん挑戦してみたいです。それと同時に今までみたいに、自分がよいと思った物や場所を撮っていきたくて、人の笑顔の写真もずっと撮り続けたいですね。自分の感性や気持ちに正直に、素直になって“気になったら撮影！”のスタイルで、もっともっと楽しみたいです。

挑戦することに前向きで、積極的な国仲涼子さん。自分の思いを写真に投影するそのスタイルで、色んな感動を撮ってください。新しい感動の形を楽しみにしています！



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.